

大人のまちの楽しみ方 アソビノベーション+ONE

大人塾アソビノベーションコース

第1回「そんなことより、楽しく暮らそう」

平成27年5月30日(土) 10:00~12:00

会場：セッション杉並 於 視聴覚室

杉並区教育委員会社会教育主事 中曽根 聡

おはようございます。杉並区立社会教育センター社会教育主事の中曽根です。まずは、すぎなみ大人塾のことをお話させてください。始まったのは、平成17年。今年で11回目の年となりました。当初は「大人塾」という名前が恥ずかしいと言われていましたが、当時「大人」という言葉自体が良い印象がなかったのかもしれませんが、しかし、「大人が楽しまない」と、「子供が夢を描けない」と、地域で自信をもって続けてきました。現在では、卒業生同士が日常的に会ったり、つながりができたりと活動が進んでおります。5月23日には、講演会とセットで、大人塾まつりをしました。出店も多く、みなさんの楽しさ、元気を感じました。100名の方が参加した打ち上げも交流が深まったと思います。長年続けてきて、ますます、この大人塾の意義を感じております。大人塾のキャッチフレーズ「自分を振り返り、社会とのつながりを見つける大人の放課後」を大事に運営していきます。講座自体は、学校のような一方的な講義ではなく、参加された方の体験や会話をベースに学びを深めていくかたちです。今年度は2つのコースを開催しています。1つ目はアソビノベーション、2つ目はだがしや楽校。もしよかったら、ほかのコースも覗いてみてください。今年のアソビノベーションコースのチラシをご覧になった方も多いと思いますが、これは職員です。担当した職員は楽しんで工夫して講座を創っています。教育委員会の講座ですが、気楽に参加してという気持ちを出しております。杉並のまちを遊び心をもって見直してみようと、去年から実施してきたアソビノベーションコースです。遊びの要素をいれて、いろんな人と繋がってみよう、やってみようという14回のコースです。日々の生活がありますので、遠慮なく休んでいただいて、来られるときには、ぜひ来てください。学んだ後にしか、学んだ意味は感じられないと思いますので、どうぞ続けてみて、1年後に振り返ると、いろいろ学べたかなと感じると思います。今年度も、どうぞよろしくお願いいたします。

学習支援者 広石拓司

エンパブリックという対話を創っている会社をやっています。根津に事務所を持っていて、自治体の協働型の事業に関わっております。

学習支援補助者 齊藤志野歩

杉並に密着した、いろんな企画に参加しています。本業は不動産屋さんです。

杉並区立社会教育センター 吉川浩

吉川です。どうぞよろしくお願いいたします。

杉並区立社会教育センター 湊真澄

毎年関わらせて頂いております。今年も楽しく参加させてください。よろしくお願いいたします。

杉並区立社会教育センター 梶山寿子

はじめまして。よろしくお願いいたします。だがしや楽校コースの担当です。

杉並区立社会教育センター 瀬山岬

よろしくお願いいたします。みなさんと交流できたら幸いです。

杉並区立社会教育センター 遠藤明日香

初めての担当ですが、どうぞよろしくお願いいたします。

国立教育政策研究所生涯学習政策研究部統括研究官

大人塾アドバイザー 笹井 宏益

今日は大学生を連れてまいりました。後ろで見学をさせてください。全国的に見ても、大人塾は素晴らしい活動をしていらっしゃると思います。去年からのテーマである遊びは、とてもユニークです。今年も、多くの受講生さんが集まっています。ただいているので、ぜひ地域を楽しんでくだされば幸いです。どうぞよろしくお願いいたします。

学習支援者 広石拓司

いつも誰か来るのかなと不安なのですが、こんなに来てくださりありがとうございます。考えたこと、参加された動機が違うと思います。ここは、みなさん目的が違い、年齢、性別、背景が違う。このコースで基本的にやることは「遊ぶこと」。遊ぶしかしないと思ってください。去年は遊びの入門。今年は遊びにプラス「自分を振り返り、社会とのつながりを見つける大人の放課後」です。放課後は、遊んだ方がよいよねということで始めました。放課後のほうが学んだ感じもありますでしたか？多くの人は学ぶというと、机の上でというイメージがありますが、実は子供の時代から机以外の場所で学んでいるのではないのでしょうか。学習支援者の私たちは教えるというよりも、遊んでいただいて、ともに探っていく者です。適宜、サポートをしながら、みなさんの学びを応援していきます。今年は何を学ぶのか。遊びです。遊びというと、パチンコ、ゲームなど、お金を使って遊ぶなど、消費するのが遊びと思いませんか。自分たちで工夫していくのも遊びなのではないのでしょうか。では、遊びとは何なのか、それを探っていきます。遊びは楽しいけど、楽しいってなんだろう？ボランティアは楽しいと聞きますけど、楽しさとは何なのでしょう。遊ぶという機能が少なくなった時代でもありますが、大人がまちで遊ぶとは、どんなことなのでしょう。年齢のせいで、遊べないのがありますよね。

遊びにプラスワン。自分にプラスワン。自分と誰か。自分と仲間。自分と体験。自分と挑戦。まさかやってみるとは思わなかったことでも、誘ってくれるからやってできることだってあります。どんどんプラスワン、プラスワンを重ねていったら何が見えてくるのか。みなさんのハテナが大事です。遊びプラスハテナをつけて考えてほしいなと思っています。学習の場は、たいてい目的はセットです。学びの意味は終わってみないとわからない。みなさんで、プラス、ハテナを見つけてほしい。自ら学びを開く。学ぶというと、先生が教える参加者が学ぶというイメージが強いですが、学ぶことは参加者の主体的な行為です。たいてい、先生が話しているのがメインになってしまいがちです。何から学ぶのか、どう学ぶのか、何を学ぶのかは自分次第。仕事での遊びは、目的とか手法が明確です。仕事の遊びは与えてもらえますから。遊びからの学びは、何でもありです。目的や成果、手法がオープンなので、自分で設定して、探求する。だから、遊んでください。もっと知りたいと思ったら、学びのスタートです。では、さっそく遊びます。

3人1組になっていただいて、場所はどこでも結構です。5分間。キャッチボールをしながら、会話してみてください。例えば、ボールを持ったら、相手に投げるときに「どちらにお住まいですか？」ボールを貰ったら、投げ返しながら、答える「善福寺です」。さらに、質問もします。「なんで参加したんですか？」これを繰り返してみてください。



※様々な場所でキャッチボールを終えて…

学習支援者 広石拓司

いかがでした？やってみて面白かった時と、そうでもない時がありますよね。こうしたら、もっと面白くなりそうなアイデアってありますか？

参加者

長距離でやりたいです。

参加者

罰ゲームがあると良いのでは。

参加者

初対面なので、何を聞いたら良いのか焦ってしまいます。すぐに答えなきやいけないので、また焦ります。

参加者

思いつきでどんどん話すとテンポ良かったです。心を開けたら、もっと良かったなと思います。

参加者

だんだん投げるのが面倒になって、普通にしゃべりたくなってきました。

学習支援者 広石拓司

もう1回、違うメンバーでやってみましょう。55分に帰って来て下さい。どこでやっても良いです。気軽に声をかけて、やってみてください。

※再びキャッチボールの後に…。

学習支援者 広石拓司

はしゃぎすぎて注意されて帰ってきた方もいて、遊んでいる感じがしますよね。普通に話してみたいという方もいらっしまったので、今度は普通に自己紹介をしてください。3分ずつと自分のことを紹介してください。他の人は聞くだけです。次に6人で紹介してみましょう。互いに互いを伝えてください。他己紹介といいます。それでは、始めてみましょう。



学習支援者 広石拓司

今回は6人でチーム名を作ってみてください。たとえば、僕らはユニット名を作りました。

学習支援補助者 齊藤志野歩

去年と違うことをやると意気込みましたが、別に大したことないっぽい名前をつけたくて、最初に思いついたのが「チーム 豆腐の角」。やがて、「チーム 蚤の富士登山」。結局、「チーム のれんに全力腕おし」になりました。

学習支援者 広石拓司

ちょっと発表してみませんか。チーム名とお名前を言ってくださったあとに、チーム名の由来を教えてください。

※チーム名決めの話し合いを15分行ったあとで…。

グループ1

チーム 「グレープフルーツサワー」

若い人が多いので、フレッシュさ。引越したばかりの方もいます。お酒も好きな人が多いので、グレープフルーツサワーになりました。

## グループ2

### チーム 「日本の障子」

海外経験のある方、海外に興味がある方が多かった。海外を知ると日本の良さを知るというのも共通点があり、何かの本に書いてあった「日本の障子から文化が見えてくる」という文から命名しました。世界から見てわかった日本、杉並の良さを見つけていきたいです

## グループ3

### チーム 「グローカルチャンコ」

海外経験の多い人がいて、みなさん日本食が恋しい時があったそうです。日本食といえば、鍋。鍋は、いろんな具材が集まり、みんなで食べられます。様々な人が集まり、新たな地域、関係を創る気持ちをもった仲間が集まりました。

## グループ4

### チーム 「中央線のむ、のむ、のめるけどのめない、のみたいけどのめない、のむ」

お酒が好きなメンバーが集まり、それぞれの状況を入れたら、こんなに長い名前になりました。みなさん、中央線沿線に住んでいるので、多様な酒場もあるということ。



学習支援者 広石拓司

遊んでいただいたので、講座の感じがわかったと思います。自己紹介の工夫、

やり方なども見えてきたのではないのでしょうか。そういうところから遊びが生まれてくるのでしょうか。ホモ・サピエンスが知恵のある人、ホモ・ファベルは作る人。そして、ホモ・ルーデンス。ホイジンガが作った言葉で、遊ぶ人という意味です。「遊びは文化に先行する。すなわち遊びそのものが文化」であると話しています。遊びは仕事をしていないとか、何かの否定形の状態ではなくて、遊びそのものの中において完結するものと考えています。遊びって、必要や欲望など直接的な満足という過程の外にあって、役に立たないことではないのです。そして、遊びは主体的な行為ですから、みなさんが動く中で気づいて、つくってってください。講師はアドバイスやガイドラインを作りがちなのですが、大人塾ではオープンにして、みなさんと会話しながら作っていきたいです。講師としても、講座の終着地点や方法など、見えない不確実なところがあります。だからこそ、遊んでいただき、遊びの中からハテナを出して欲しいです。例えば、目的が主導ではないアクションに、友人以外の人を誘うのは、どうしたらよいのでしょうか？日々の生活に、どうしたら遊びをいれられるでしょう。

「遊びのルールって何だろう」、「遊びってこういうことなのかな」と疑問が出てきたら、ちょっと考えてみてほしいです。今日もボールを投げてくださいって参加してくれてありがたいです。実は、みなさん大人なので、ボールを投げてくださいないんじゃないかと不安になっていました。ずっと参加して下さったのが、本当にうれしかったです。これからも遊んでいきますので、どうぞよろしくお願いいたします。